

政宗公ご命日拝礼式での白石さん(昭和61年5月24日、瑞宝殿前にて)



ます。

伊達家の家臣として仙台に、五代以降は所領の登米郡の石森、現在の中田町に居住しておりました。私は戦争中縁故疎開で石森に参りまして、おやじが二期町長を務めたこともあり、密接な地縁があったというわけでございます。

川井：ありがとうございます。先生と白石の片倉、真田、そして田村家とのかわりがよく分かりました。

**白石城主 初代が刈田氏 二代が白石氏**

川井：続いて、白石さんからは刈田白石氏、そして登米との関係についてお願いしたいと思います。

もとで、白石家再興を四代藩主伊達綱村公に直訴するんです。綱村公は年限を区切って、その間に千石の野谷地を開拓すれば再興させてやると申された。家臣団は全力を挙げて頑張ったが、七百四十石しか開拓できなかった。目標に届かずということ。この水田と共に旧白石家の家臣団は登米伊達家につけさせるといふ藩命が下り、泣く泣く家臣団は復帰したんです。

あの方たちは毎年、米山にある長源寺の殿様のお墓をお参りして守ってきました。昭和初期に「旧白石家奉賛会」を結成して現在に至っております。三百四十年前前に滅亡した主家の墓を旧家臣団の子孫の方々が守ってくださいている。私は傍流ですけれども、白石家の子孫といまして本当にありがたいことだと感謝しております。

**二十一世紀は 文明の対立**

川井：それで、にわかには戦国時代から今日に移るわけでございますが、アメリカでの同時多発テロ事件以来大変な時代になっているわけですが、正直言いまして、アラブ、イスラムというのはよく分からないんですね。先生がエジプト大使のときに

白石：家に伝わる歴史によりまして、刈田氏の始まりというのは奥州藤原氏の一族で、藤原清衡の弟の終元です。後三年の役の戦功により刈田・伊具郡を賜って、白石に居住するようになりまして。その後、源頼朝の奥州藤原氏征伐があり、鎌倉から攻めてまいります。そのときに、刈田氏には秀信、秀長という兄弟があり、家名を残すために兄が藤原方、弟は鎌倉方についたんですね。それで、厚樫山の戦いで兄は戦死、弟は生き延びる。その戦功により刈田・伊具郡は安堵され、刈田氏を改め白石を名乗るようになったんです。

伊達家とのかわりと申しまして、白石になってから三代目の長俊には娘しかいなかったの、伊達家四世政依の次男、宗弘を養子に迎え、白石家四代となりまして。以来、伊達家の一族として臣従したということでございます。

それからずっと時代は下りまして、政宗公の時代に有名なのは白石宗実です。私の家は傍流でございます。宗実の父、宗利の弟の直安を初代としており、私の代で十六代目です。

**白石から 登米へ**

白石：宗実は大内定綱の小手森城攻めに参加し、これを攻め落とし、戦功により宮森城主となります。これが天正十四年(一五八六)のことで、このとき白石城を去るわけなんです。その後、政宗公の命で関和久城主、さらに秀吉の奥州再仕置により水沢城主となります。宗実の死後、宗実には娘一人しかいなかったため、伊達宗清(稗宗公八男)の嫡男、宗直を養子に迎えました。

慶長五年、政宗公は家康から「百万石のお墨付」をもらい、約束通り上杉の居城であった白石城を攻め落とします。そこで

シェプスト祭舞殿を見学させていただきました。何月かたつたらもうそこで虐殺事件が起きて、初めてイスラム原理主義という名前を知ったという程度が私の知識ですが、一般的にもそのようなものだろうと思っております。

ただこの間、先生が新聞にお書きになったのを拝見いたしました。根っこにパレスチナ問題があるということを書いておられました。その辺からイスラムを知るための考え方について、解説的にお話をいただければと思います。

片倉：ワールド・トレード・センタービルの爆破事件をはじめとした同時多発テロが、アメリカのまさに中心部で起こりました。オサマ・ビン・ラーディンとか、あるいは国際的なテロネットワーク「アルカイダ」が関係あるんじゃないか。どうもアラブとかイスラムという、国際テロに関係あるんじゃないかと疑われる。

私も外務省に入りまして四年ばかり、主としてアラビア語を専攻したものですから、イスラム教徒とはたっぷり付き合ってきたつもりです。イスラム文化にどっぷりつかってきまして、そういう見方をされると非常にやるせない、つらい思いもしているわけでございます。

**日常のイスラム教は 平和を愛する宗教**

片倉：イスラムという宗教、これは私が見ますと平和を愛する宗教であり、決して人との争い、紛争を好む宗教ではないと思います。お互いの付き合いでも「サラーム・アライクム」(あなたの上に平安あれ。そして、お返し言葉が「アライクム・サラーム」)あなたの方の上に平安を(というのから始まるあいさつでもおわかりのようにですね。

やめておけばよかったです。宗直は政宗公の内命を受けて「和賀一揆」を裏で支援します。このことが家康に知られ、「百万石のお墨付」は反古になってしまったのです。

さらに政宗公は申し開きとして、和賀一揆のことは知らなかった。白石宗直が勝手にやった私戦であると言い逃れをしたんです。それが元で慶長九年、水沢から登米へ移封されてしまっています。

宗直が登米へ行ったところが、土地は荒れ放題で、城も家もない。農民たちは逃げてしまつて田畑もないという状態でした。彼は気を取り直して河川改修をし、水田を作り直して、登米一万五千石を作り上げたんです。



片倉家に伝わる真田幸村公文字槍(慶長年間)。一九九九年九月に仙台市博物館に寄託

それから、決して他の宗教、例えばユダヤ教、キリスト教という先行する宗教に対しても、いたずらに敵対する宗教ではありません。むしろ異なる宗教に対して非常に寛容で、共存を今までも実践してきました。

ただ、最近起こっていることは、ジハード「聖戦」ですね。日常のイスラムでジハードというのは努力するということなんです。就職のために努力する、あるいは成績を上げるために努力するということ。しかし、外側からの侵略が行われ、あるいは圧迫されると、こういう状況ではこれをねのけるためにアラアの神のために戦う、抵抗する。これが「聖戦」という形になるわけで、やはり状況次第、環境次第によっては、非常に好戦的なイメージに通じる聖戦になる、これは緊急避難的反応といふべきです。

**民族紛争の最たるものが パレスチナ問題**

片倉：イスラムが興りましたのがサウジアラビアです。六二一年にマホメッドが開祖したということなんです。そのメッカ、メディナという聖地を持っているのがサウジアラビア。それから第三の聖地がエルサレムなんです。マホメッドが生まれた

**登米から米山へ**

川井：平成七年の六月でしたか、白石さんと一緒に、米山へ移ったときの家臣団の子孫の方たちが白石城へおいでになりました。子孫の方たちは天守閣から町並みを見て、「我々の先祖がこの町を築いたのか、感無量です」などと話されていたことを覚えておりますが、米山へ移ったいきさつなどをお願いしたいんですが。

白石：先程の話の続きになりますが、宗直が亡くなった後、長男の宗貞が登米の二代藩主を継ぐんですが、父宗直が晩年、政宗公のために罪を着せられて一番ひどい目に遭ったということで、政宗公の命令に従わなかったため、今まで一門であったのが一家に格下げになってしまつたんです。

それから数年後、仙台藩の命令で強制的に宗貞は隠居させられ、二代藩主忠宗公の息子を養子にして、登米伊達家を継ぐということになりました。宗貞は無念の思いで家臣六十五人を連れ、米山の西野という所へ移住しました。その後、跡継ぎに恵まれず、宗貞の後二代でお家断絶になってしまいました。そこで、家臣が仙台大橋のた

